

【ユーザーレポート：池原クリニック様】

乾燥・送風機能付き軟性内視鏡保管庫KD-30



※池原クリニック様ホームページはこちら

兵庫県神戸市のJR六甲道駅前にある池原クリニック様は、消化器内視鏡検査専門のクリニックとして内視鏡検査を上部・下部合わせて年間約3000件実施しております。

院内や内視鏡検査における感染対策についても、ホームページを通して積極的に発信されている池原先生にインタビューをしました。

01 ご購入のきっかけ

内視鏡の保管について、現在はアルコールフラッシュをした後に吊るして保管することが推奨されています。しかしアルコールフラッシュ後もわずかに管路内に水滴が残っていると考えます。見えない管路内で、わずかな水滴から細菌が増える、カビが生えるなど心配がありました。

02 KD-30のメリット

KD-30を使用することで管路内を温風で乾燥することができるため、衛生的に内視鏡を保管できていると考えます。またKD-30を使用してから内視鏡の故障も少ないと感じています。新型コロナウイルスのまん延初期にアルコールが不足し、一時期アルコールフラッシュの実施が困難となりました。その際、管路内の乾燥ができるKD-30が活躍しました。

03 KD-30の改善点

KD-30には内視鏡を3本しか掛けることができません。このサイズを維持したまま最低でも4本以上乾燥乾燥できるようになればなお良いと思います。



↑インタビューに答えていただいた池原伸直先生

←
乾燥・送風機能付き
軟性内視鏡保管庫
KD-30
2019年設置。←
スリッパ殺菌
ディスペンサーSSDX
もご使用いただいで
おります。
先代の先生の時代に
設置していただきました。